

農業気象観測装置

ここに紹介する器械は、北海道上川支庁と福島県の1部とに新設された気象庁の農業気象観測所観測装置である。農業気象観測所で観測する (1) 気温 (2) 降水 (3) 日照 (4) 風 (5) 湿度 (6) 積雪 (7) 土壌水分 (8) 現象 (9) 天気 の9要素のうち (1)~(5) をこの装置で観測する。この装置には、3ヶ月巻の長期巻時計によって各要素の連続記録をとる記録部と、風速、日照時間、降水量を従来の気象器械にはなかった数字で指示する指示部がある。指示部の最下位の数字は、風程 300メートル、日照時間 0.1時間、降水量 1ミリメートルで1だけ動く。また指示数字は二面あって、風速と日照時間は24時に、降水量は9時に、自動的に切り換えられ、それまでの積算値が一方に残るようになっている。それで24時、および9時の値を9時過ぎに読み取ることができる。観測担当者は、気象観測の専門家ではないので、観測の手順が簡単で正確に早くできることを目的として、この装置が作られた。

この装置を使って行なう観測は、毎日9時が定時のもので、その他、必要な時刻にも行なうことになっている。観測値は電報で地方気象台に集められ、地方気象台では、この値を整理、解析し、県側の農事資料とあわせ、農業気象通報として毎日発表する。その他、観測値および解析結果を農業気象週報、農業気象月表、農業気象災害速報などの印刷物として発行する。これらの情報は、農事担当者に提供され、十分に利用されれば、農業気象災害を防いだり、農業経営を合理化したりして、農業生産を増大させることができるものと、大きな期待がかけられている。

(解説 気象庁産業気象課 中島 博、
写真 気象庁図書課 片山成一)

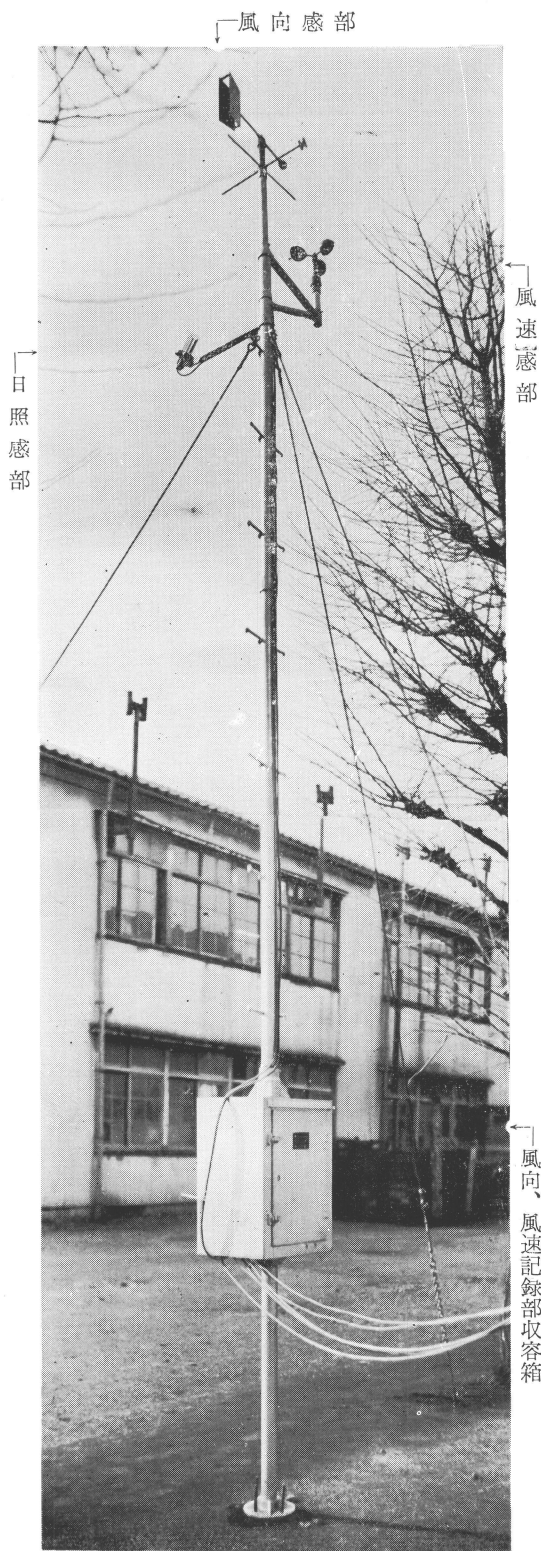
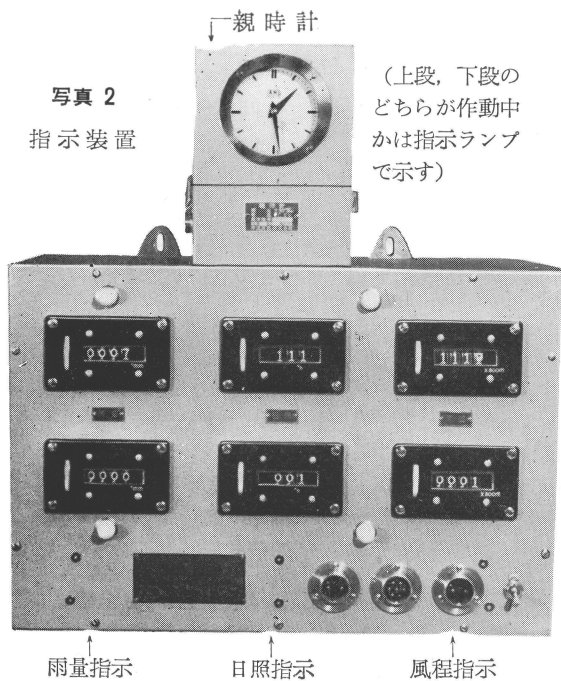


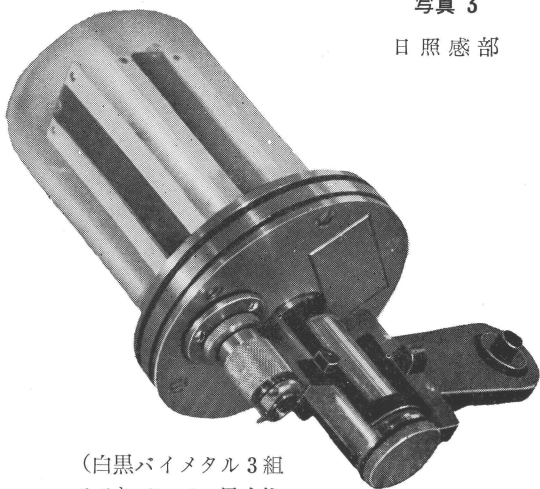
写真 1 風力柱 (高さ 6 m)

写真 2
指示装置



(上段, 下段の
どちらが作動中
かは指示ランプ
で示す)

写真 3
日照感部



(白黒バイメタル3組
でできていて, 風力柱
に取り付けてある)

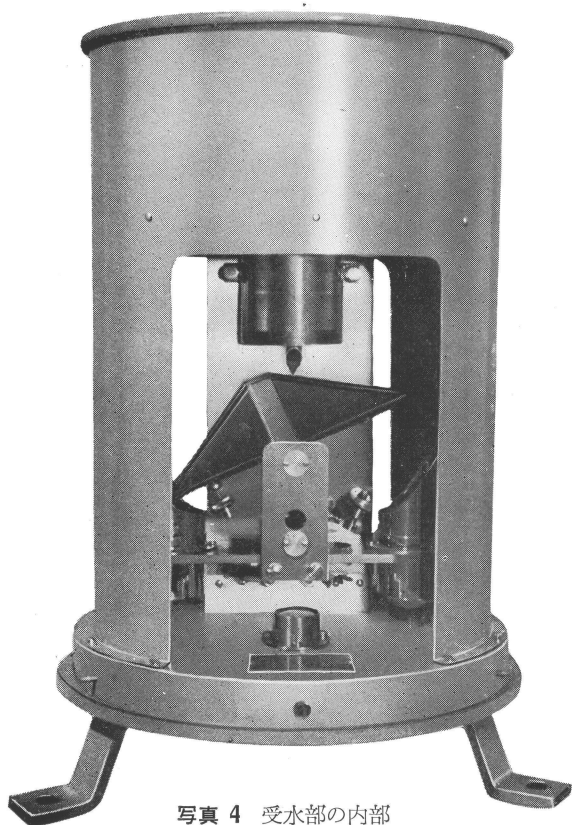
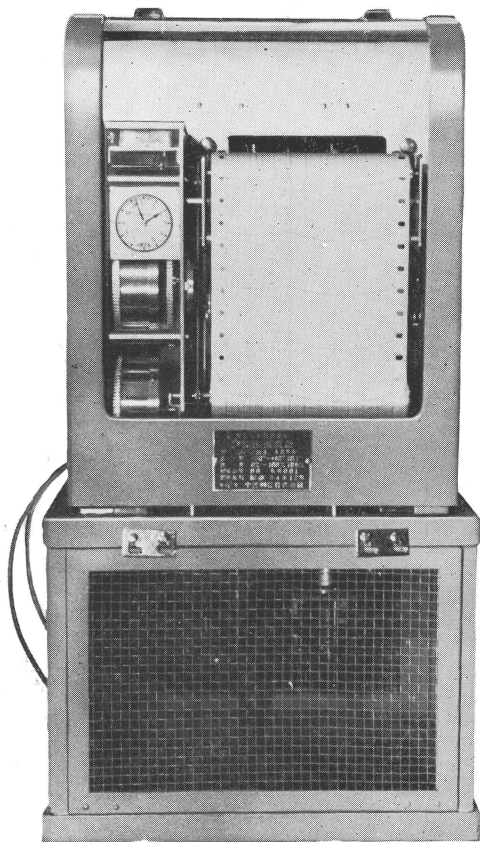


写真 4 受水部の内部

(口径 20cm の受水器がこの外にかぶさる。
転倒すは 0.5mm で1転倒する)



湿度感部(毛髪) 温度感部(バイメタル)

写真 5 温度湿度記録装置

(百葉箱内に設置する。風向, 風速, 日照, 雨
量の記録部もこの記録部と同じ構造である)